

# 報 告 書

令和4年度

\* 事 業 報 告

\* 財 務 諸 表

一般財団法人 千代田健康開発事業団

〒101-0043

東京都千代田区神田富山町9番地 神田東邦センタービル

TEL 03-5296-3351 FAX 03-5296-3352

ホームページ <http://www.chiyoda-kenko.jp>

# 令和4年度 事業報告

令和4年4月 1日から

令和5年3月31日まで

事業概況	2
I 社会厚生事業	3
1. 令和4年度「社会厚生事業助成金制度」の運営	3
2. 地域社会及び健康に寄与する活動・団体への協賛	4
3. 地域社会住民に対する健康相談、健診事業	4
II 有料老人ホーム運営事業：「ラビドール御宿」	5
1. 事業基盤の健全性・安全性・効率性の取組み	5
2. 入居者満足度の維持・向上	7
3. 人材育成の取組み	9
4. 安定経営に向けての新規入居促進	10
5. 介護サービスの品質及び満足度向上	11
III 診療所運営事業：「財団附属診療所ラビドールクリニック」	16
1. 診療状況	16
2. 地域での活動	16
3. 「ラビドール御宿」との、医療と介護のチームケア能力の向上	17
4. 職員の知識、技能のレベルアップ	17
5. 「ラビドール御宿」入居者検診実施状況	17
6. 新型コロナウイルスの感染予防	17
IV 理事会、評議員会に関する事項	18

# 令和4年度 事業報告

〔 令和4年4月 1日から  
令和5年3月31日まで 〕

## 事業概況

今年度の新型コロナウイルスの感染状況は、令和5年1月上旬には全国で23万人と、多くの感染者数を記録したが、その後は徐々に減少し、3月には、5月8日に「5類」に分類引き下げが公表され、やっと収束が見えた。

一般財団法人千代田健康開発事業団は、この3年間にわたり、徹底した感染症対策に取り組み、ご入居者の方々及びご家族様の多大なるご理解とご協力のおかげで、大変厳しい高齢者事業の運営であったが、長期安定経営の重要な部分である新規契約についても予算を達成し、顧客満足度も一定の成果を上げることができた。

社会厚生事業の「保健活動助成」は、全国の保健所がまだまだ新型コロナウイルスの対応に追われる中でも、21件の受賞者があり、次年度も継続して保健・福祉活動の支援を行う。

地域社会及び健康に寄与する活動・団体への協賛は、主催者の意向を反映し、協賛活動は自粛した。

県行政機関には、引き続き千葉県高齢者保健福祉計画策定・推進協議会の委員、千葉県社会福祉協議会及び千葉県介護保険関連団体協議会は評議員として参画し、協力関係を継続した。

有料老人ホーム運営事業は、全国有料老人ホーム協会の総会、全国地域連絡協議会幹事長会議にリモート参加、全国介護付きホーム協会の総会など今年度も両団体との連携を図り、高齢者事業の今後の見通しや職員の処遇改善など業界関係者との繋がりを強固とした。

ラビドール御宿は、感染症対策を講じながら、南房総の恵まれた気候と自然環境をベースに他ホームとの差異化をより顕著に表現し、元気寿命を伸ばすという健康サポートを軸に生涯ケアシステムを実現した。

診療所運営事業は、相変わらず高齢化率が千葉県内でトップになっている御宿町の数少ない医療機関として存在感が増しており、新型コロナウイルスワクチン接種の医療支援を含めた地域医療の貢献と老年医学・老年看護を日々求められている状況においても、良質な医療サポートを実施した。

ホーム入居者の高齢化が顕著となっている中、有床診療所から無床診療所への転換期を向かえ、医療サポートの質的变化は生じているが、365日24時間体制の医療サポートは今年度も堅持でき、看取りケアについてもホーム介護サービス部と連携して個別ケアに取り組んだ。

以 上

# I 社会厚生事業

## 1. 令和4年度「社会厚生事業助成金制度」の運営

昭和29年に創設した社会厚生事業助成金制度であるが、昨年と同様に「保健活動助成」のみを実施した。なお、助成制度発足以来の助成団体数及び助成金累計額は下記の通りである。

項目	令和4年度		発足以来の累計額	
	団体数	助成金額(万円)	団体数	助成金額(万円)
医学研究助成	—	—	1,667	128,745
保健活動助成	21	420	964	19,580
合計	21	420	2,631	148,325

### (1) 第26回「保健活動助成」の実施

#### ①応募内容

- (A) 応募期間：令和4年7月初旬～9月末日
- (B) 活動テーマ：地域保健活動の推進において、高齢者や成人に対する医療・介護に関し顕著な実績を上げている保健師（個人またはグループ）の活動
- (C) 応募要件：都道府県・市・区の保健所長または市区町村所管部門長の推薦を受けること
- (D) 助成団体数：35団体以内
- (E) 助成金額：1団体につき20万円
- (F) 後援：厚生労働省・全国保健所長会・全国保健師長会

#### ②チヨダ地域保健推進賞の状況

令和4年度は、全国各地の保健所等から新型コロナウイルス感染症対応で忙しい状況の中、応募を頂戴することができ、理事会にて選考の結果21名（グループ）が受賞され、創設以来、延べ964名（グループ）の方々が受賞している。

今回、応募要領を従来通り保健所に郵送すると共に、市区町村についても昨年度と同様に地域の健康づくりの担当部署へ直接郵送した。また、更なる応募数増加に向け、大都市については高齢者介護の担当部署にも直接郵送した。

ご後援を賜っている厚生労働省・全国保健所長会・全国保健師長会をはじめ、全国各地の保健所長、都道府県、市区町村の保健福祉関係部門長の皆様のご支援、ご協力に対し深く感謝を申し上げます。

#### ③表彰の実施

表彰は、経費節減と安全面を考慮し、令和4年11月に表彰状を入賞者（グループ）に送付し、報奨金（20万円）を入賞者（グループ）の指定銀行へ送金した。

#### ④保健活動成果報告集の発行

令和5年5月に令和4年度（第26回）「保健活動成果報告集」を発行して関係者に配布する予定である。

## 2. 地域社会及び健康に寄与する活動・団体への協賛

令和4年度も、地元夷隅地域を中心に協賛・支援し、実施状況は下記の通りである。

### (1) 実施状況

#### ①「第37回全日本学生ライフセービング選手権大会」へ協賛

全日本学生ライフセービング選手権大会が御宿中央海岸にて開催され、全国の大学から36校、531名が参加した。初日は台風15号の影響により競技は中止となったが、2日目は天候も回復し競技は予定通り無事終了することができた。今回は新型コロナウイルス感染症の影響により大会パンフレットの紙での配布は中止し、(公財)日本ライフセービング協会のホームページへの掲載のみであったが、協賛企業としてラビドール御宿の広告掲載を行った。

#### ②「第15回いすみ健康マラソン大会（増田明美杯）」へ協賛

いすみ健康マラソン大会が3年ぶりに12月3日（土）、4日（日）に開催され、全国各地から約4,000名のランナーが参加した。大会当日は絶好のマラソン日和となり、5km・10kmに職員3名が出場した。今回は新型コロナウイルス感染症の影響により開催が危ぶまれたため、協賛の募集は行わず、大会パンフレットの配布も中止した。

#### ③「御宿町」へ協賛

御宿町が認知症地域支援事業として（公社）認知症の人と家族の会の協力により実施する「家族等を介護する家族交流会」（12月15日（木））の開催通知の配布に併せて、財団からの協賛品（ウェットティッシュ）を御宿町の全戸へ配布した。

#### ④「オルカ鴨川FC」へ協賛

ラビドール御宿の協力医療機関である亀田総合病院が協力している女子サッカーチーム「オルカ鴨川FC」に協賛した。今年度は元なでしこJapanの野田朱美氏を監督として招聘し、新加入選手や若手の台頭により12チーム中5位（11勝8敗3分）で終了し、昨年度より順位を4つ上げ、優勝を狙える位置まで来た。また、協賛によりオルカ鴨川FCオフィシャルサイトへラビドール御宿が掲載された。

## 3. 地域社会住民に対する健康相談、健診事業

財団附属診療所（ラビドールクリニック）で行っている地域住民に対する健康相談、健診の実施を支援した。令和4年度実施した健康相談、健診協力は下記のとおりであり、

- (1) 新型コロナウイルスワクチン接種への協力。
- (2) 御宿町特定健康診査・高齢者健診への協力。
- (3) インフルエンザワクチン予防接種、肺炎球菌ワクチン予防接種への協力。
- (4) 風疹の抗体検査・予防接種への協力。
- (5) 地域での産業医活動（千葉県水産情報通信センターの嘱託産業医）。
- (6) 医師会活動。

等を通じて、地域社会に貢献した。

## Ⅱ 有料老人ホーム運営事業：「ラビドール御宿」

令和4年度においても新型コロナウイルス感染症の「第7波」及び「第8波」の影響はホーム運営へ大きな影響を与えた。特段、入居促進活動は高齢者の出控えによる見学者の減少や館内への感染防止として、見学を受け入れを自粛せざるを得ない状況が継続した。

一方、ホーム内においては職員延べ15名の罹患者が発生したが、体調不良時の報告と休務の徹底やマスクの着用、手指洗浄・手指消毒等の感染予防対策を講じた事により、入居者からの発生を2名に止める事が出来た。

また、新型コロナウイルス感染症においては「罹患者の全数把握の見直し」「マスク着用の個人判断」「2類相当から5類への引き下げ」等の規制緩和により、コロナ禍の生活は大きな転換点を迎えた一年であったが、感染予防指針に基づき都度の対応を行った。

この様な厳しい社会環境が継続する中、ラビドール御宿は「入居時自立リゾート型ホーム・医療・介護・看取り・確かな経験と実績」の特徴を新聞や雑誌等、幅広く展開したことにより、令和4年度も12組17名の新規入居者を迎え入れ安定経営へ繋げられた。

ホーム運営においては、入居者の高齢化に伴う介護サービスの対象者及びサービス内容の増加により、介護職員の必要度がより高まり今後も計画的な人員増は不可欠な状況であるが、令和4年度においても近隣の高等学校から2名の介護職員並びに1名のフロント職員を採用する事が出来た。

また、職員へ対しての労働災害及び健康障害の防止を目的とした「安全衛生委員会」は、職場内定期巡視を始めストレスチェック・定期健康診断等を産業医である同財団診療所長指導の下、7年目を終えた。

生活の潤いと引きこもり防止としてのイベントは、3年ぶりとなるクリスマス忘年会やラビドールホールを使用したクラシックコンサートを始め、従前のイベント再開に戻りつつある。

令和4年度においても次に挙げる具体的な取り組みを実施し、順調に運営することが出来た。

### 1. 事業基盤の健全性・安全性・効率性の取り組み

#### (1) 財務体質の強化と会計管理の維持

- 引き続き、新型コロナウイルス感染症による影響はあったが、見学者数の増加（昨年度比125%）と共に東京都等、県外からの新規の見学者が増加した。  
登録者への随時の連絡及び見学者ニーズを捉えたDMや雑誌・新聞への掲載広告を行い12組17名の新規入居者を迎え入れることができた。一方、退去は15室17名であったが、今後もシニアニーズに合わせた募集活動を精力的に実施し、財務体質の強化を図って行く。
- 建物、設備においては、長期修繕計画及び緊急性等に基づき次の（2）に掲げる項目を実施した。
- 単年度予算のチェック&フォローを毎月の経営会議で行い予算内収束に努め、予算外支出は決裁書をもって実施した。診療所における委託契約料は、看護師不足による訪問看護の中止及び新型コロナウイルス感染防止としての「胃部X線検診」の中止により減額が継続した。
- (株)日立ビルシステムによる会計監査の気付き事項の改善として、固定資産への銘板シールの貼付並びに設置場所を付記した写真付き一覧表を作成し照合を行った。  
また、新会計システム導入に当たり、旧システムからの完全移行を実施した。

## (2) 建物・設備の更新

- ・長期修繕計画及び改修指導等により次の建物・機器の更新を行った。

ア. 廊下等ダウンライトのLED化工事（第1期）	イ. 職員駐車場の土地の購入
ウ. プール用エアハンの修繕工事	エ. アスレチックジムの空調機更新
オ. 診察室の空調機更新	カ. X線室の空調機更新
キ. 心電計の更新	ク. 厨房プレハブ冷凍・冷蔵庫の更新
ケ. 会計システムの更新	コ. ラビドールホール漏水防止工事
サ. 消防設備更新工事（蓄電池交換、非常照明器具交換、消火器更新、誘導灯バッテリー交換）	

## (3) 適正人員と人事制度の見直し

- ・要介護認定者数に対する介護職員の適正配置に努めた。
- ・労働基準法に準拠した「職員健康診断（定期・夜勤者）並びにストレスチェック」を継続した。
- ・コロナ禍における「自己診断ストレスチェック」を実施し、ストレス軽減に努めた。
- ・「安全衛生委員会」における職場巡視において、安全で働きやすい職場環境維持に努めた。
- ・人事制度の見直しとして、就業規則へ「パパ育休」の導入並びに千葉県最低賃金改定に伴う対応の他、正規職員以外の就業規則の改定を作成した。
- ・医師の働き方改革における「宿日直申請」手続きを実施した。
- ・「労働時間の適正な把握のために使用者が講ずべき措置に関するガイドライン」に則り、電子タイムレコーダーを導入し出退勤管理を継続した。
- ・諸物価高騰を鑑み、各職員へ「インフレ手当」を支給した。

## (4) 介護保険制度

- ・職員配置状況やサービス内容、改正に伴う保険点数や個人負担に留意し、誤りの無い請求を継続した。
- ・介護職員処遇改善加算及び介護職員等特定処遇加算の申請・報告の手続きを法令に基づき行った。

## (5) リスクマネジメント

各リスクに対し、管理の強化に努めた。

- ・「データ流出のリスク」対策として、「個人情報の保護」について各部ミーティング内での勉強会を実施し、内容と共に重要性の認識を深めた。  
また、職員のマイナンバーにおいて適正な保管を継続した。
- ・「食品衛生のリスク」対策として、衛生管理基準の遵守、所轄保健所の定期検査、食材の安全仕入管理（トレーサビリティ）、自己管理の強化（食堂担当業者の罹病時の報告徹底）を継続して、食中毒事故防止の徹底を図った。
- ・「感染症リスク」対策として、一般居室入居者2名が新型コロナウイルス感染症へ罹患したが居室内隔離並びに受診時等における感染防止対策を徹底した事により、まん延防止が図られた。  
継続を要する新型コロナウイルス感染症対策については、毎週行われた「新型コロナウイルス感染症対策委員会」において、体調不良時の報告と休務の徹底並びに発熱外来への搬送シミュレーション、PPE（个人防护着）の着用方法等を徹底した。
- ・「広告表示物」作成時においては、（公社）全国有料老人ホーム協会の他、新聞社・婦人画報社等の指導要領の遵守に加えて、同協会によるリーガルチェックの受審を継続した。

- ・「自然災害へのリスク」対策として、入居者参加の火災時避難訓練を消防署員立ち会いの下、3回実施した。併せて、職員へ対しては自然災害発生時における緊急通報訓練（館内放送）や緊急連絡網による職員招集訓練を実施した。
- ・「介護事故へのリスク」対策として、安全管理体制を強化すると共にインシデント（ヒヤリハット）・アクシデントの報告厳守と再発防止に努めた。また、転倒のリスクが高い方へ対してセンサーマットの更新を行った。
- ・「安全装置の機能維持」対策として、緊急通報装置・自動火災通報装置の各居室への定期立入検査を行い、安全性の維持に努めた。
- ・「交通事故への取り組み」としては、交通安全週間や夏季・年末年始における交通量増加時期に加え、冬場の安全運転ポイント等、注意喚起を定期的に行い安全運転への意識維持に努めたが、1件（通院時）の自損事故が発生し、改めて再発防止に取り組んだ。
- ・「検案事例」の発生は無かったが、居室内での転倒等の早期発見対策である喫食状況やメールボックス・館内利用の確認を継続した。

## 2. 入居者満足度の維持・向上

### (1) 生活サポートの充実

- ・会話を通しての親しみのある雰囲気維持すると共に、フロント職員・介護職員その他全職員が「笑顔と挨拶・マナー」を励行し、接遇の向上に努めた。
- ・入居者からの申し出に対しては、迅速な対応と実施後の確認を励行した。
- ・売店商品においては、新型コロナウイルス感染症予防としてのマスクや薬用ハンドソープ等の衛生用品を売店前に陳列する等、サービス維持と感染症予防に努めた。
- ・入居時の引っ越しサポートとご逝去における遺族サポートを継続した。
- ・身元引受人へ対し、ラビドール誌、暑中見舞い、年賀状等の送付に加え、適宜連絡を実施した。
- ・各種同好会並びに個人発表会に対しては、ポスター作成のお手伝いや諸準備などのサポートを行った。
- ・同好会活性化を図るため、職員主導による「写経の会」「ゴルフ練習会」「折り紙同好会」を継続し、参加増に繋がった。また、新たに「CDコンサート」や「カルトナーージュ教室」のサポートを行った。

### (2) イベント企画

- ・春夏秋冬の4大イベント（納涼祭、文化祭、クリスマス忘年会、春の花祭り）は新型コロナウイルス感染症予防として、中止或いは規模を縮小し実施したが、クリスマス忘年会、春の花祭りは、3年ぶりに実施する事が出来た。また、外部から招聘して行っていたクラシックコンサートも感染症予防を講じながら開催する事が出来た。
- ・近隣へのお買い物ツアーの増便並びに初詣ツアーにおいても開催する事が出来た。
- ・「サロン遊々」や「珈琲館アンシャンテ」を始め、お茶会、映画観賞会等は、新型コロナウイルス感染症の発症者数等を勘案しながら実施或いは中止した。

【実施イベント一覧】

開催月	イベント名	開催月	イベント名
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・半日お買い物ツアー (26名)</li> <li>・端午の節句飾り</li> <li>・鯉のぼり</li> </ul>	10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第10回ゴルフ大会 (14名)</li> <li>・パークゴルフ会 (7名)</li> <li>・半日お買い物ツアー (24名)</li> <li>・ハロウィン飾り</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パークゴルフ会 (8名)</li> <li>・野点 (37名)</li> <li>・ピアノリサイタル (52名)</li> <li>・docomo スマホ教室 (17名)</li> <li>・菖蒲湯</li> <li>・母の日のカーネーション進呈</li> </ul>	11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭展示の部</li> <li>・文化祭発表の部 (75名)</li> <li>・寿会 (12名)</li> <li>・体力測定 (42名)</li> <li>・パークゴルフ会 (6名)</li> <li>・オータムコンサート (54名)</li> <li>・半日お買い物ツアー (15名)</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力測定 (32名)</li> <li>・半日お買い物ツアー (21名)</li> <li>・寿会 (23名)</li> <li>・ジャズコンサート (41名)</li> <li>・父の日の黄色いバラ進呈</li> <li>・七夕飾り</li> </ul>	12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリスマス忘年会 (92名)</li> <li>・docomo スマホ教室 (19名)</li> <li>・暮れのお買い物ツアー (19名)</li> <li>・餅つき会 (70名)</li> <li>・クリスマス飾り</li> <li>・イルミネーション飾り</li> <li>・柚子湯</li> <li>・正月飾り</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今野由梨氏講演会 (8名)</li> <li>・納涼祭 (中止)</li> </ul>	1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成田山初詣ツアー (17名)</li> <li>・新春お茶会 (44名)</li> <li>・半日お買い物ツアー (15名)</li> <li>・節分飾り</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・半日お買い物ツアー (23名)</li> </ul>	2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初詣会 (32名)</li> <li>・半日お買い物ツアー (15名)</li> <li>・節分豆配布</li> <li>・雛飾り</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護サービス説明会 (82名)</li> <li>・パークゴルフ会 (7名)</li> <li>・半日お買い物ツアー (16名)</li> <li>・十五夜飾り</li> </ul>	3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LAVIE☆FESTA (82名)</li> <li>・スプリングコンサート (63名)</li> <li>・蓬餅と甘酒のご賞味会 (75名)</li> <li>・庭園内のお花見会 (62名)</li> <li>・半日お買い物ツアー (13名)</li> <li>・ロビー花飾り</li> <li>・雛あられ配布</li> </ul>
<p>※納涼祭は「新型コロナウイルス感染拡大防止」の為、中止とした。</p>			

### (3) 食事の満足度の向上

- ・喫食数の状況は、全ての食事で減少した。

	令和4年度		令和3年度		増減	
	総食数	1日平均	総食数	1日平均	総食数	1日平均
朝食	29,256食	80食	31,654食	87食	2,398食減	7食減
昼食	33,567食	92食	34,943食	96食	1,376食減	4食減
夕食	37,018食	101食	38,939食	107食	1,921食減	6食減

- ・予約無しでも食事が出来る固定食（そば・うどん・カレーライス）の継続提供を行った。
- ・刺身、ステーキなどの特別価格帯でのパーティー料理の提供とその維持に努めた。
- ・味覚を考慮した誤嚥防止食、高齢者向け機能性食品の提供を行った。また、ケアセンター利用者へ対し夏場の水分補給としてフルーツの提供や、お寿司の実演提供をイベントとして行った。
- ・食事改善に取り組み「新規メニュー」や「シェフのおすすめメニュー」を継続し、食数維持に努めた。
- ・テーブルクロスは感染状況の落ち着きに合わせ、再開し清潔感のある楽しい空間造りに努めた。
- ・PRメニューの掲示を毎週行い、喫食数維持に努めた。

### (4) 住環境の満足度向上

- ・定期的な敷地内巡回により、老朽化した排水管の更新工事を立案し、個別に実施した。

### (5) 介護予防対策

- ・介護予防及び新型コロナウイルス感染症による体力低下防止を目的としたアスレチックジムの利用者増を図るべく、配布物やラビドール誌への掲載を行った。今後も体力維持・健康維持のサポートとして利用者増に努めていく。
- ・体力を可視化するための体力測定を実施した。

#### 【アスレチックジム・プール年度別延べ利用者数】

	令和4年度	令和3年度	増減
アスレチックジム	5,724名	7,366名	1,642名減
プール	1,354名	1,314名	40名増
※新型コロナウイルス感染症拡大防止に注意し、通年運営できた。			

## 3. 人材育成の取組み

### (1) OJTによる働きがいのある職場づくりの構築

- ・職員の育成としては、ケースカンファレンスを中心とした社内研修会で知識、技術の向上を図ると共に、安心できる職場環境の構築によりロイヤリティーの向上に努めた。
- ・コミュニケーション手法や接客対応力の向上においては、ベテラン職員が手本となり、中堅職員等に指導した。
- ・介護職員においては、身体ケアを反復訓練して基本的な介護技術の完全修得と技術向上を図った。
- ・家族的介護の視点に立った「寄り添うケア・心のこもったケア」について実践指導を行い、安心感のある介護サービスの提供に努めた。
- ・アクティビティ担当や教育担当など、各担当制により個々の目標達成と責任を明確化して業務達成意識の向上を図った。
- ・新人を中心に緊急搬送訓練を述べ10回40名が参加した。

## (2) OFF-JTによるスキルアップ

- 介護保険集団研修を始め、千葉県や社会福祉協議会及び（公社）全国有料老人ホーム協会等の対面研修は新型コロナウイルス感染防止として中止となったが、「オンデマンド研修」にて知識・技術の向上に努めた。

No.	研修名	No.	研修名
1	新人職員研修	5	夷隅保健所 給食施設に必要な災害時の備え
2	夷隅保健所 新型コロナウイルス対策	6	医師の働き方改革
3	国際福祉機器展	7	インボイス制度対応セミナー
4	厚労省 院内感染対策講習会	8	千葉県 介護保険集団指導

## (3) 提案制度の推進

- 令和4年度においては、各部より68件（昨年度65件）の応募があり6名が表彰された。

一等：「入居者健診時における予約・絶食の徹底」

## 4. 安定経営に向けての新規入居促進

### (1) 新規入居促進の取組み

- 令和4年度は、3年にわたる入居検討活動の停滞に対し不安を抱える高齢者に向けて新聞掲載の他、登録者の定期情報を中心とした入居促進活動の強化、東京入居相談室の個別相談からの現地見学を積極的に実施し、見学者数は105組179名（前年比125%）と増加した。
- 読売新聞、朝日新聞の東京都東部・千葉県エリア、また日本経済新聞シニア向け企画「人生100年の羅針盤」への紹介記事掲載を積極的に展開し入居実績を得た。
- 雑誌媒体は東京入居相談室によりNHK出版「きょうの健康」を開拓、「婦人画報」「週刊朝日高齢者ホームMOOK」「アフルエント」を継続活用した。
- ホームページにおいては、令和4年8月より資料請求・見学者を増やすため動画を一新した。動画は新たに館内を撮影し、外観・御宿霊園はドローンを使用して、居室・医療介護等を紹介した。ほかにサークル活動として令和2年度ラビドールゴルフ大会の様態も掲載し、他施設ホームページとの差異化を図った。
- 地域資源として、亀田総合病院・ミレーニア勝浦・勝浦東急GC・西武リアルティソリューションズ・御宿霊園、大原御宿GCを訪問、パンフレットの設置を実施した。
- 入居促進活動として1日1組の個別入居相談や入居への最終確認を希望する入居検討者、登録者に向けた体験入居を実施した。
- 新型コロナウイルスの影響が長期化する中で当ホームを見学選定された入居検討者との個別的コミュニケーションの醸成により様々な来館機会を発信しリピーターの拡充を実施した。

### (2) ラビドール御宿の社会的評価・信頼度向上への取組み

- ホーム運営の透明性・健全性として、ホームページにおける重要事項説明書の更新、最新情報の公開等、積極的な情報提供に努めた。
- 新聞、雑誌、その他発信物全般において（公社）有料老人ホーム協会リーガルチェックを受審、広告表示法のコンプライアンス遵守を徹底した。
- 各関係部署との連携により新規入居者への個別的対応を徹底しホーム生活への定着を促した。

【見学状況】

年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
見学者数	105組179名	81組143名	56組85名

【新聞・雑誌掲載状況】

読売新聞全面カラー広告掲載（東京東版）	6月16日、10月14日、 3月16日
読売新聞全5段カラー広告掲載（東京エリア版：東西北）	8月 3日
朝日新聞全面カラー広告掲載（東京東版）	4月 8日、 7月14日
日本経済新聞「人生100年の羅針盤」掲載	5月26日
日本経済新聞全5段夕刊モノクロ広告掲載	9月21日
NHK出版「きょうの健康」取材記事掲載	6月21日、12月21日
週刊ダイヤモンド首都圏「高級老人ホーム」ベスト72	5月 7日
週刊ダイヤモンド本誌 取材記事掲載	10月24日
週刊朝日MOOK2023「話題のホーム見聞録」掲載	9月13日
婦人画報掲載	9月30日
アフルエント掲載	5月10日
千葉県医師会報誌掲載	定期掲載6回／年
学士会会報誌掲載	定期掲載6回／年
全日本学生ライフセービング選手権大会協賛広告	9月24日

【入居状況】

項目	令和4年度	令和3年度	平成2年度
新規入居者数	12組17名	10組12名	9組13名
退去者数 （内、死亡退去）	15組17名 （15組17名）	18組26名 （17組24名）	12組18名 （12組18名）
年度末入居者数	167室220名	170室220名	178室234名

【企業等見学状況】

新型コロナウイルス感染拡大状況に伴い企業見学は停止。

【企画見学】

登録者向けDM「体験入居&日帰り見学のご案内」（4月、5月、7月、9月、10月、1月、2月）

有料老人ホーム協会友の会向けDM（4月、11月）

新聞、雑誌等において「東京入居相談室」「個別入居相談」案内を徹底した。

## 5. 介護サービスの品質及び満足度向上

### （1）介護予防諸施策の充実

介護予防の推進施策としての体力測定を継続し、「入居者が定期的な身体活動に取り組む事」を支援した。

体力測定は6月と11月に実施し、①握力測定、②開眼片足立ち、③歩行速度、④骨密度測定を行う事で、介護予防における運動の必要性を通年で高める事ができた。感染症予防として、10分毎の予約制とし、6グループに分ける取り組みも実施した。

自立者及び要支援者を中心にサポートする居室グループでは、アスレチックジムの運動指導員と共同で毎週水曜日に「元気づくり体操」を継続実施した。フレイル・サルコペニア予防・ADL維持を目標とした運動プログラムの他に、クイズ・ゲーム・レクリエーションのメニューを盛り込み、認知症予防プログラムの充実を図った。

また、ケアセンターでのフレイル進行抑制としては、「コグニサイズ：運動と思考を織り交ぜた体操」と「いきいき体操：運動（体操）・ゲーム・クイズ・回想法等、レクリエーションの要素を取り入れた活動」をケアセンターで継続し、体力・身体機能の維持に努めた。

一方、栄養摂取面では、咀嚼力・嚥下力の維持・向上のための「嚥下体操」を継続し、食事前の嚥下機能訓練と食後の口腔ケアを丁寧に実施した。

新型コロナウイルス感染症禍でのケアセンターにおける活動として屋外活動を積極的に取り入れ、東屋、中庭及び遊歩道での外気浴を増やし、安全な環境下での会話や散歩等を楽しむ事ができた。

また、日光を浴びながら屋外で気持ち良く声を出して「歌を楽しむ」等の活動は、免疫を高める効果もあったのではと考えている。

その他、アクティビティについては小グループ制の活動を継続していたが、新型コロナウイルス感染症の患者数の減少や規制緩和において、年度末にはグループアクティビティ（集団プログラム）の再開や人が集まって共有するフロア活動の重要性も感じる事ができた。

#### 【介護予防運動実施状況】

実施月	令和4年度		令和3年度	
	実施回数	延べ参加人数	実施回数	延べ参加人数
4月	31回	348名	23回	190名
5月	33回	420名	22回	180名
6月	32回	354名	13回	116名
7月	31回	293名	26回	279名
8月	32回	318名	31回	313名
9月	33回	298名	30回	304名
10月	21回	185名	32回	321名
11月	12回	82名	27回	275名
12月	23回	228名	33回	346名
1月	32回	259名	29回	347名
2月	31回	271名	28回	329名
3月	23回	229名	35回	392名
合計	334回	3,285名	329回	3,392名

【アクティビティ実施状況】

実施月	令和4年度		令和3年度	
	実施回数	延べ参加人数	実施回数	延べ参加人数
4月	37回	291名	58回	448名
5月	41回	323名	50回	446名
6月	43回	436名	44回	288名
7月	15回	101名	43回	269名
8月	17回	125名	41回	178名
9月	34回	205名	51回	357名
10月	38回	180名	46回	383名
11月	27回	122名	46回	297名
12月	37回	242名	42回	293名
1月	28回	150名	29回	183名
2月	23回	200名	34回	267名
3月	32回	217名	41回	367名
合計	372回	2,592名	525回	3,776名

(2) 暮らしやすい生活支援サービスの充実

入居者の自立生活サポートの充実として、「ラビドール式フットケア」や「珈琲館アンシャンテ」「サロン遊々」「お買い物ツアー」等のアクティビティプログラムを実施した。

高齢化によるケアセンター利用者の増加に対しては、令和2年度から令和3年度に増設した臨時個室5室を活用し、体調を考慮したフロアの選定と一時的な介護者の利用に柔軟に対応する事が出来た。

また、居室介護生活をより安心・安全にお過ごしいただく為、福祉用具専門業者と連携し、居室内の介助バー（手すり）の設置や電動ベッドのレンタル（一部有料）又は購入をサポートし、最新の福祉住環境にて居室生活を支える事が出来た。更に、令和4年度は歩行補助具の相談件数が多くなり、自身の体形や歩行力に合わせた歩行補助具のフィッティングを福祉用具専門業者と行い、安全で効果的な歩行器の導入支援を行う事が出来た。

入居者の体調管理については、入居者の高齢化により自立者への一時的な介護サービスのニーズが高まり、薬の管理や食欲の低下等の相談、突発的な体調不良時の協力医療機関への通院付添を含め、看護師を中心とする専門スタッフの健康サポートの必要度が高まった。

新型コロナウイルス感染防止として、感染拡大時期における家族のケアセンターへの来訪・面会の自粛及び時間制限等を設けた。

また、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、介護・看護職員（エッセンシャルワーカー）の休務日が増え、各種行事を中止し最小限の勤務者で運営する等、BCP（業務継続計画）に基づいた介護サービスを提供した。

介護サービス部では「新型コロナウイルス感染症対策委員会」の指示の下、備品の備蓄やスタンダードプリコーション（標準予防策）の徹底、発熱者の発生に備えたシミュレーション訓練を継続した。

職員や職員の家族から発熱等を含む風邪症状が認められる場合は、休務或いは勤務の中止等により感染拡大防止に努めた。

罹患した職員が復帰する前には、療養期間終了後にホームで備蓄した抗原検査キットを使用し、感染防止の徹底を図った。

【フットケア実績（平成20年7月より毎月開催）】

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年	13名	17名	18名	17名	20名	22名	18名	22名	17名	21名	18名	16名	219名
令和3年	14名	14名	20名	19名	16名	19名	13名	15名	14名	15名	14名	13名	186名
令和2年	18名	20名	16名	20名	18名	17名	13名	14名	15名	19名	17名	17名	204名

【珈琲館実績（平成20年6月より毎月開催）】

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年	8名	6名	14名	9名	9名	中止	14名	13名	6名	9名	9名	12名	109名
令和3年	9名	13名	9名	中止	中止	9名	9名	11名	9名	中止	中止	9名	78名
令和2年	中止	26名	28名	32名	中止	18名	32名	30名	中止	中止	中止	11名	177名

【サロン遊々実績（平成24年7月より毎月開催）】

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年	6名	5名	6名	6名	6名	6名	8名	6名	3名	7名	8名	6名	73名
令和3年	3名	4名	4名	7名	6名	4名	5名	4名	5名	6名	中止	5名	53名
令和2年	中止	中止	4名	5名	6名	4名	4名	5名	4名	6名	6名	6名	50名

(3) 安心・安全・プライバシー遵守

自立者への介護情報サポートとして、「第12回介護サービス説明会」を9月に行った。

テーマは「ラビドール御宿の介護サービスについて」と題し、介護保険認定前の介護サービス（自立生活支援）からラビドール御宿の介護保険サービス（居室介護サービス及びケアセンター介護サービス）として、自立生活から看取りまで、財団附属診療所と連携し入居者を主体としたパーソナルケアが「総合・包括的」に行われているシステムの説明を詳しく行った。

更に、介護認定を受けられている入居者及び身元引受人を対象とした「介護懇談会」を上期4月（16名参加）と下期11月（13名参加）の2回開催し、ラビドール御宿の介護サービスの実施状況に基づき、活発的な意見交換が行われた。本懇談会において入居者の健康をお守りする各種対応について安心を提供することが出来た。

介護事故としては、インシデント57件（昨年度61件）、アクシデント16件（昨年度8件）の発生があった。

インシデント、アクシデントの内訳として、転倒が全体の70%を超える52件、次いで表皮剥離7件であった。今後も入居者の安全を第一に改善に取り組んでいく。

身体的な介護事故の他、金銭管理の対応強化の取り組みとして、入居者・身元引受人には、ケアセンター利用の際「金品を持ち込まない」、「金品の管理を身元引受人に委ねる」事を記載した同意書を新たに作成した。

職員へ対しては、入居者の「金品、金融機関手続き」に一切関わらない、関われない取り決めに徹底し、加えて入居者不在時の部屋への立ち入りは2名で行う事を徹底した。

【インシデント・アクシデント件数】

区分	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
インシデント	57件	61件	79件	94件
アクシデント	16件	8件	22件	26件
合計	73件	69件	101件	120件
(内転倒件数)	(52件)	(39件)	(54件)	(59件)

(4) 医療との連携強化

ケアセンターへの訪問診療・居宅療養管理指導を通して、褥瘡対応や夜間時における吸痰処置の他、食欲低下者の栄養コントロール等、自立者から要支援者・要介護者への医療サポートを得る事が出来た。

また、入居者の健康をお守りする看護チームへ対し、迅速且つ的確な医療指導が行われた。

看取りについては、本人及び家族の意向に添った緩和ケア・看取りケアに取り組む目標を持ち、同財団付属診療所医師を中心とする医療チームと連携し、14名の看取り(緩和ケアを含む)に携る事が出来た。

この看取りケアについては経験と情報収集、チーム内連携が重要であり、ラビドール御宿は同財団付属診療所医師を交えた「最良の看取りケア」を目指し、技能向上に努めた。

(5) 介護の人材育成

新卒採用者には介護職員初任者研修受講支援を行い、介護資格を取得する事が出来た。

令和4年度は介護福祉士の受験者が無く、次年度に向け、介護職員実務者研修の受講者支援に着手した。

### Ⅲ 診療所運営事業：「財団附属診療所 ラビドールクリニック」

令和4年度は、前年度同様に新型コロナウイルス感染症に影響を受けた一年であった。ラビドール御宿入居者では2名の感染者が発生したが、ラビドール御宿の職員と共に感染拡大防止を図り、幸いにもクラスターには至らなかった。一方、社会的に様々な制約がある中でも、地域医療への貢献と共に、「ラビドール御宿」への365日24時間の医療サポートを継続した。

地域医療においては、地元である御宿町（高齢化率約52%）で高齢者医療を担っている。新型コロナウイルスワクチン接種へも協力し、医師が延べ43回、看護師が延べ16回出動した。

「ラビドール御宿」では入居者の高齢化が進んでおり、外来診療・健康診断のそれぞれにおいて高齢者に適した対応を実施している。看取りケアでは、最近3年間では亡くなられた53名の84%がラビドールでの看取りとなっている（昨年度19名、今年度14名）。

今年度においても、財団附属診療所としてコンプライアンスを守り、良質な医療の提供に努め、地域住民並びにラビドール御宿入居者の健康サポートに貢献すべくスタッフ一同で努力した。

#### 1. 診療状況

外来診療では10年目となる常勤医2名体制が定着している。今年度も新型コロナウイルスワクチン接種への出動等により診療日数が減少したものの、外来患者数は昨年度と同数を維持している。

ケアセンターでの医療的な需要の増加（看取りケア等）に伴い、訪問診療回数は前年度より高い値となっている（前年度比7%増）。一方で、看護師のマンパワー不足が続き、入院には対応出来なかった。

##### 【診療所患者数等】

年度	外来			入院		
	延患者数	診療日数	一日平均	延患者数	診療日数	一日平均
令和4年度	6,541人	217日	30.14人	0人	365日	0人
令和3年度	6,537人	218日	29.99人	0人	365日	0人
令和2年度	6,948人	230日	30.21人	2人	365日	0.01人
令和元年度	8,650人	240日	36.04人	36人	366日	0.10人

- ・ケアセンターへの訪問診療（月平均）：97回（昨年度91回）
- ・新型コロナウイルスワクチン接種：医師が延べ43回、看護師が延べ16回、御宿町に出動。
- ・インフルエンザワクチン接種：513名（昨年度532名）
- ・肺炎球菌ワクチン予防接種：22名（昨年度13名）
- ・風疹抗体価測定：2名（昨年度4名）
- ・介護保険主治医意見書：72通（昨年度65通）
- ・介護保険居宅療養管理指導（月平均）：34名（昨年度33名）

#### 2. 地域での活動

(1) 「御宿町特定健康診査・高齢者健診」に健診医として4回協力した（30年目）。

(2) 所長が「ラビドール御宿」の産業医として、毎月の「安全衛生委員会」のメンバーとなり、職場巡視、ストレスチェック、健康診断の所見作成等を実施した（7年目）。

また、医師会からの要請により御宿町内の「千葉県水産情報通信センター」の嘱託産業医となり、職場巡視等を実施した（7年目）。

### 3. 「ラビドール御宿」との、医療と介護のチームケア能力の向上

- (1) ケアセンターへの医療サポートを実施した。
  - ・ケアセンター看護業務に対して、ホーム看護チームに協力して対応した。
  - ・経鼻胃管栄養、膀胱留置カテーテル、インスリン注射等に医療サポートを行った。
  - ・褥瘡予防ではハイリスク者に個別対応を行い、治療も協力して実施した。
  - ・「看取りケア」に対して、ホームと連携して入居者の個別なニーズに対応し、14名をケアセンターにて看取らせていただいた（昨年度19名）。
- (2) 毎月1回のホームでのサービス担当者会議は、文書配布・連絡等にて非対面で実施した。更に適宜メールや電話にて確認することにより、要介護・要支援認定者等に対しての情報共有に努めた。  
ホームの「新型コロナウイルス感染症対策委員会」との情報共有を行った。
- (3) 前年度同様に多くの服薬自己管理困難者（要介護・要支援認定者等、月平均56名）に対して、ホームと連携し薬剤師を中心にサポートを行った。

### 4. 職員の知識、技能のレベルアップ

- (1) 対面式の研修会は中止となったものが多く、参加出来なかった。一方で、厚生労働省及び日本看護協会による「オンデマンド研修」の3テーマを昨年度同様に看護師全員が受講した。  
千葉県医師会主催「産業医研修会」に所長が参加した。
- (2) 「安全管理研修会」を年2回実施した。「インシデント・アクシデント報告」を分析し、対策を図った。  
（「インシデント・アクシデント報告」年間2件、重大な事故はゼロ。）
- (3) 「院内感染対策研修会」を年2回実施した。
- (4) 看護師4名が認知症ケア専門士（日本認知症ケア学会）の資格を持ち、スタッフ全員で認知症の知識についてのアップデートに努めた。

### 5. 「ラビドール御宿」入居者検診実施状況

新型コロナウイルス感染症防止対策を講じ、3年ぶりに腹部超音波検診は実施出来たが、胃X線検診については昨年度同様に中止とした。

(1) 腹部超音波検診	5月～6月	105名受診（昨年度中止）。
(2) 総合健診	9月～11月	127名受診（昨年度127名受診）。 健診項目を一部変更。感染予防を徹底し実施。
(3) 胃X線検診	3月～4月	中止（昨年度中止）。

※検診でのインシデント・アクシデントの予防に努め、事故ゼロを達成している。

### 6. 新型コロナウイルスの感染予防

外来患者に高齢者の多いリスクを考慮し、可能な限り厳重な感染対策を実施した。

- (1) アルコール手指消毒液・自動体温測定器の設置。
- (2) マスク着用での診察・手洗い、感染症疑いの受診者は別室での診察、診察室・待合室の換気。
- (3) 感染症が疑われるホーム入居者・職員には、抗原簡易検査キットでの迅速な検査の実施。
- (4) ホーム入居者・職員へのワクチン接種：4回目・5回目として、延べ451回接種した。

## IV 理事会、評議員会に関する事項

### 令和4年度第1回理事会

- (1) 日時：令和4年 5月10日（火）13時30分～14時55分
- (2) 場所：ラビドール御宿
- (3) 議題：第1号議案 令和3年度事業報告及び決算の承認に関する件  
第2号議案 令和4年度定時評議員会の開催に関する件

### 令和4年度定時評議員会

- (1) 日時：令和4年 5月26日（木） 9時55分～11時15分
- (2) 場所：ホテルマイステイズ御茶ノ水
- (3) 議題：第1号議案 令和3年度事業報告に関する件  
第2号議案 令和3年度決算報告の承認に関する件

### 令和4年度第2回理事会

- (1) 日時：令和4年10月12日（水）13時25分～14時35分
- (2) 場所：ラビドール御宿
- (3) 議題：第1号議案 令和4年度（第26回）「チヨダ地域保健推進賞」選考に関する件

### 令和4年度第3回理事会

- (1) 日時：令和5年 3月16日（木）13時25分～15時
- (2) 場所：ラビドール御宿
- (3) 議題：第1号議案 令和5年度事業計画及び収支予算に関する件

令和4年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和5年5月  
一般財団法人 千代田健康開発事業団

# 令和4年度 財務諸表

令和4年4月 1日から

令和5年3月31日まで

* 貸借対照表	… 21
* 正味財産増減計算書	… 22
* 財務諸表に対する注記	… 26
* 附属明細書	… 30

**貸借対照表**  
令和5年3月31日現在

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
<b>I 資産の部</b>			
<b>1. 流動資産</b>			
現金預金	101,176,759	153,674,646	△ 52,497,887
未収入金	75,904,452	101,365,345	△ 25,460,893
棚卸資産	4,511,642	4,578,134	△ 66,492
前払費用	3,608,594	3,696,624	△ 88,030
繰延税金資産	7,893,500	8,051,400	△ 157,900
その他	2,976,478	433,580	2,542,898
流動資産 合計	196,071,425	271,799,729	△ 75,728,304
<b>2. 固定資産</b>			
<b>(1) 特定資産</b>			
特定資産有価証券	1,000,000,000	1,000,000,000	0
建物	12,416,904	13,283,496	△ 866,592
建物附属設備	1	1	0
構築物	13,908,763	14,488,294	△ 579,531
車両運搬具	1,653,927	2,483,369	△ 829,442
什器備品	64,527	668,411	△ 603,884
土地	15,400,000	15,400,000	0
固定資産購入積立資産	558,002,963	555,817,414	2,185,549
霊園購入積立資産	76,343,727	76,343,727	0
特定資産 合計	1,677,790,812	1,678,484,712	△ 693,900
<b>(2) その他固定資産</b>			
建物	859,412,313	892,580,177	△ 33,167,864
建物附属設備	75,309,257	76,200,901	△ 891,644
構築物	37,254,640	40,305,456	△ 3,050,816
車両運搬具	1	1	0
什器備品	61,118,068	67,833,839	△ 6,715,771
リース資産	0	0	0
土地	843,946,410	825,037,210	18,909,200
電話加入権	2,996,308	2,996,308	0
ソフトウェア	7,256,992	7,232,358	24,634
敷金	3,354,950	3,504,950	△ 150,000
長期前払費用	1,068,834	0	1,068,834
投資有価証券	1,147,987,000	1,108,020,500	39,966,500
電気通信施設利用権	313,720	350,627	△ 36,907
その他固定資産 合計	3,040,018,493	3,024,062,327	15,956,166
固定資産 合計	4,717,809,305	4,702,547,039	15,262,266
<b>資産 合計</b>	4,913,880,730	4,974,346,768	△ 60,466,038
<b>II 負債の部</b>			
<b>1. 流動負債</b>			
未払金	278,000	6,569,523	△ 6,291,523
未払費用	24,274,778	33,056,682	△ 8,781,904
未払法人税等	140,000	140,000	0
未払消費税	4,082,100	2,803,700	1,278,400
賞与引当金	37,428,100	38,240,080	△ 811,980
前受金	16,812,100	15,685,800	1,126,300
預り金	2,411,167	2,418,217	△ 7,050
仮受金	0	0	0
流動負債 合計	85,426,245	98,914,002	△ 13,487,757
<b>2. 固定負債</b>			
入居預り金	1,651,111,500	1,588,779,000	62,332,500
介護費預り金	263,909,810	252,143,077	11,766,733
入居者長期未払金	19,959,316	27,585,883	△ 7,626,567
入居者長期預り金	761,117,944	740,404,534	20,713,410
介護費長期預り金	97,972,823	91,329,902	6,642,921
リース債務	0	0	0
役員退職慰労引当金	1,800,000	900,000	900,000
固定負債 合計	2,795,871,393	2,701,142,396	94,728,997
<b>負債 合計</b>	2,881,297,638	2,800,056,398	81,241,240
<b>III 正味財産の部</b>			
<b>1. 指定正味財産</b>			
(うち特定資産への充当額)	1,664,405,409	1,715,292,860	△ 50,887,451
(うち特定資産への充当額)	(1,572,115,304)	(1,572,218,129)	(102,825)
<b>2. 一般正味財産</b>			
(うち特定資産への充当額)	368,177,683	458,997,510	△ 90,819,827
(うち特定資産への充当額)	(105,675,508)	(106,266,583)	(591,075)
<b>正味財産 合計</b>	2,032,583,092	2,174,290,370	△ 141,707,278
<b>負債及び正味財産 合計</b>	4,913,880,730	4,974,346,768	△ 60,466,038

正味財産増減計算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 特定資産運用益			
特定資産受取利息	22,915,278	22,393,627	521,651
特定資産売却益	0	0	0
特定資産運用益 計	22,915,278	22,393,627	521,651
② 事業収益			
老人ホーム事業収益			
入居預り金償却益	350,146,668	388,046,843	△ 37,900,175
管理費収益	184,839,600	189,866,600	△ 5,027,000
食費収益	78,056,468	81,766,335	△ 3,709,867
飲料収益	17,067,651	16,300,907	766,744
売店収益	17,708,237	18,470,593	△ 762,356
施設負担金収益	12,692,589	13,276,235	△ 583,646
施設利用料収益	630,300	501,600	128,700
老人ホーム事業収益 計	661,141,513	708,229,113	△ 47,087,600
医療事業収益			
医療外来収益	64,838,431	67,495,963	△ 2,657,532
医療入院収益	0	0	0
医療室料収益	0	0	0
介護保険収益	6,497,744	6,181,852	315,892
医療その他収益	3,722,661	4,745,267	△ 1,022,606
医療事業収益 計	75,058,836	78,423,082	△ 3,364,246
介護事業収益			
介護費預り金償却益	55,189,243	60,561,701	△ 5,372,458
介護保険収益	132,158,510	137,857,070	△ 5,698,560
介護事業収益 計	187,347,753	198,418,771	△ 11,071,018
事業収益 計	923,548,102	985,070,966	△ 61,522,864
③ 受取寄付金			
受取寄付金振替額	19,221,742	3,245,990	15,975,752
④ 雑収益			
受取利息	20,762,036	15,380,045	5,381,991
投資有価証券償還益	0	0	0
投資有価証券評価益	0	0	0
永代使用料収益	0	0	0
雑収益	8,594,553	6,010,390	2,584,163
雑収益 計	29,356,589	21,390,435	7,966,154
経常収益 計	995,041,711	1,032,101,018	△ 37,059,307
(2) 経常費用			
① 事業費			
役員報酬	3,616,667	3,600,000	16,667
給与手当	319,787,956	313,004,608	6,783,348
賞与引当金繰入	36,588,870	37,271,397	△ 682,527
役員退職慰労引当金繰入	300,000	33,333	266,667
法定福利費	52,238,973	48,250,567	3,988,406
退職年金保険料	7,256,240	7,642,000	△ 385,760
通勤費	5,994,170	6,359,300	△ 365,130
福利厚生費	1,846,941	2,117,618	△ 270,677
被服費	536,519	850,263	△ 313,744
研修費	125,040	117,660	7,380
会議費	120,280	82,830	37,450
旅費交通費	101,046	11,040	90,006
通信運搬費	2,788,650	2,866,963	△ 78,313
什器備品費	996,741	3,914,718	△ 2,917,977
消耗品費	6,346,879	6,124,360	222,519
修繕費	46,342,020	25,941,071	20,400,949
印刷費	3,586,887	3,589,264	△ 2,377
図書費	194,655	160,772	33,883
燃料費	16,700,588	15,687,555	1,013,033
電気料	32,003,889	23,790,946	8,212,943
水道料	6,527,530	6,749,781	△ 222,251
保守費	4,599,276	4,351,600	247,676
賃借料	1,933,146	2,433,146	△ 500,000
リース料	2,092,893	2,019,237	73,656
業務委託費	180,405,038	183,743,837	△ 3,338,799
清掃費	2,009,649	2,011,240	△ 1,591
保険料	2,125,058	2,147,838	△ 22,780
交際費	294,934	371,339	△ 76,405
諸会費	4,099,800	3,215,800	884,000
租税公課	45,665,110	37,977,500	7,687,610
自動車費	3,312,641	2,771,316	541,325
施設負担金	3,992,868	3,992,868	0
販売費	3,542,571	2,674,449	868,122
広告宣伝費	25,146,398	25,118,758	27,640
教養娯楽費	2,646,368	1,696,013	950,355
支払手数料	3,451,837	3,625,540	△ 173,703
売店仕入費	15,614,219	16,253,248	△ 639,029

正味財産増減計算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
医薬品仕入費	27,281,538	29,163,863	△ 1,882,325
介護負担金	3,286,400	4,359,299	△ 1,072,899
研究助成費	4,200,000	4,800,000	△ 600,000
建物減価償却費	70,026,016	68,950,839	1,075,177
リース資産減価償却費	0	0	0
建物付属設備減価償却費	11,468,144	14,415,471	△ 2,947,327
構築物減価償却費	4,172,347	3,510,917	661,430
車両運搬具減価償却費	829,442	1,508,700	△ 679,258
什器備品減価償却費	20,870,033	22,295,182	△ 1,425,149
電気通信施設減価償却費	36,907	36,907	0
ソフトウェア減価償却費	2,454,766	2,215,179	239,587
長期前払費用減価償却費	141,166	0	141,166
雑費	1,167,855	2,171,130	△ 1,003,275
事業費 計	990,866,961	955,997,262	34,869,699
②管理費			
役員報酬	7,233,333	7,200,000	33,333
給与手当	8,190,265	8,188,454	1,811
賞与引当金繰入	839,230	968,683	△ 129,453
退職金	278,000	993,000	△ 715,000
役員退職慰労引当金繰入	600,000	66,667	533,333
法定福利費	2,453,344	2,487,857	△ 34,513
退職年金保険料	0	0	0
通勤費	752,130	794,820	△ 42,690
福利厚生費	1,574,801	79,276	1,495,525
会議費	216,167	65,032	151,135
旅費交通費	465,640	272,554	193,086
通信運搬費	982,866	978,166	4,700
什器備品費	0	0	0
消耗品費	69,898	70,312	△ 414
印刷費	256,611	236,680	19,931
図書費	58,800	58,800	0
電気料	301,541	296,419	5,122
水道料	22,112	25,317	△ 3,205
賃借料	4,593,514	4,593,514	0
リース料	18,480	18,480	0
業務委託費	3,644,390	3,672,720	△ 28,330
清掃費	215,406	213,508	1,898
交際費	141,200	98,840	42,360
保険料	317,296	308,363	8,933
諸会費	0	0	0
租税公課	4,044,771	3,958,528	86,243
支払手数料	24,640	28,229	△ 3,589
雑費	0	0	0
管理費 計	37,294,435	35,674,219	1,620,216
経常費用 計	1,028,161,396	991,671,481	36,489,915
当期経常増減額	△ 33,119,685	40,429,537	△ 73,549,222
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
投資有価証券売却益	0	550,000	△ 550,000
経常外収益 計	0	550,000	△ 550,000
(2) 経常外費用			
什器備品除却損	441,742	3	441,739
投資有価証券評価損	56,960,500	49,287,500	7,673,000
投資有価証券売却損	0	670,000	△ 670,000
投資有価証券償還損	0	140,000	△ 140,000
経常外費用 計	57,402,242	50,097,503	7,304,739
当期経常外増減額	△ 57,402,242	△ 49,547,503	△ 7,854,739
他会計振替額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 90,521,927	△ 9,117,966	△ 81,403,961
法人税、住民税及び事業税	140,000	140,000	0
法人税等調整額	157,900	△ 93,400	251,300
当期一般正味財産増減額	△ 90,819,827	△ 9,164,566	△ 81,655,261
一般正味財産期首残高	458,997,510	468,162,076	△ 9,164,566
一般正味財産期末残高	368,177,683	458,997,510	△ 90,819,827
II 指定正味財産増減の部			
① 特定資産運用損益			
特定資産投資有価証券評価損益	△ 75,570,000	△ 20,343,000	△ 55,227,000
② 受取寄付金			
受取寄付金	37,092,226	4,527,625	32,564,601
③ 受取利息			
受取利息	6,812,065	6,581,946	230,119
④ 一般正味財産への振替額			
一般正味財産への振替額	19,221,742	3,245,990	15,975,752
当期指定正味財産増減額	△ 50,887,451	△ 12,479,419	△ 38,408,032
指定正味財産期首残高	1,715,292,860	1,727,772,279	△ 12,479,419
指定正味財産期末残高	1,664,405,409	1,715,292,860	△ 50,887,451
III 正味財産期末残高	2,032,583,092	2,174,290,370	△ 141,707,278

**正味財産増減計算書内訳表**  
令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位:円)

科目	ホーム会計	診療所会計	社会厚生会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
① 特定資産運用益					
特定資産受取利息	0	0	0	22,915,278	22,915,278
特定資産売却益	0	0	0	0	0
特定資産運用益 計	0	0	0	22,915,278	22,915,278
② 事業収益					
老人ホーム事業収益					
入居預り金償却益	350,146,668	0	0	0	350,146,668
管理費収益	184,839,600	0	0	0	184,839,600
食費収益	78,056,468	0	0	0	78,056,468
飲料収益	17,067,651	0	0	0	17,067,651
売店収益	17,708,237	0	0	0	17,708,237
施設負担金収益	12,692,589	0	0	0	12,692,589
施設利用料収益	630,300	0	0	0	630,300
老人ホーム事業収益 計	661,141,513	0	0	0	661,141,513
医療事業収益					
医療外来収益	0	64,838,431	0	0	64,838,431
医療入院収益	0	0	0	0	0
医療室料収益	0	0	0	0	0
介護保険収益	0	6,497,744	0	0	6,497,744
医療その他収益	0	3,722,661	0	0	3,722,661
医療事業収益 計	0	75,058,836	0	0	75,058,836
介護事業収益					
介護費預り金償却益	55,189,243	0	0	0	55,189,243
介護保険収益	132,158,510	0	0	0	132,158,510
介護事業収益 計	187,347,753	0	0	0	187,347,753
事業収益 計	848,489,266	75,058,836	0	0	923,548,102
③ 受取寄付金					
受取寄付金振替額	19,221,742	0	0	0	19,221,742
④ 雑収益					
受取利息	17,341,963	73	0	3,420,000	20,762,036
投資有価証券償還益	0	0	0	0	0
投資有価証券評価益	0	0	0	0	0
永代使用料収益	0	0	0	0	0
雑収益	8,431,225	163,328	0	0	8,594,553
雑収益 計	25,773,188	163,401	0	3,420,000	29,356,589
経常収益 計	893,484,196	75,222,237	0	26,335,278	995,041,711
(2) 経常費用					
① 事業費					
役員報酬	0	0	3,616,667	0	3,616,667
給与手当	271,185,209	47,555,872	1,046,875	0	319,787,956
賞与引当金繰入	32,897,405	3,584,195	107,270	0	36,588,870
役員退職慰労引当金繰入	0	0	300,000	0	300,000
法定福利費	45,650,847	5,946,702	641,424	0	52,238,973
退職年金保険料	6,233,210	1,023,030	0	0	7,256,240
通勤費	5,620,658	373,512	0	0	5,994,170
福利厚生費	1,656,748	190,193	0	0	1,846,941
被服費	456,760	79,759	0	0	536,519
研修費	121,571	3,469	0	0	125,040
会議費	120,280	0	0	0	120,280
旅費交通費	97,076	3,970	0	0	101,046
通信運搬費	2,619,596	148,822	20,232	0	2,788,650
什器備品費	804,054	192,687	0	0	996,741
消耗品費	5,072,779	1,274,100	0	0	6,346,879
修繕費	46,334,406	7,614	0	0	46,342,020
印刷費	2,925,062	252,405	409,420	0	3,586,887
図書費	117,523	77,132	0	0	194,655
燃料費	16,700,588	0	0	0	16,700,588
電気料	30,525,766	1,386,349	91,774	0	32,003,889
水道料	6,490,020	30,780	6,730	0	6,527,530
保守費	4,387,491	211,785	0	0	4,599,276
賃借料	535,120	0	1,398,026	0	1,933,146
リース料	1,481,636	611,257	0	0	2,092,893
業務委託費	171,559,263	7,660,505	1,185,270	0	180,405,038
清掃費	1,953,730	55,919	0	0	2,009,649
保険料	2,042,347	82,711	0	0	2,125,058
交際費	199,712	95,222	0	0	294,934
諸会費	3,831,126	268,674	0	0	4,099,800
租税公課	45,657,605	7,505	0	0	45,665,110
自動車費	3,312,641	0	0	0	3,312,641
施設負担金	3,555,207	437,661	0	0	3,992,868
販売費	3,542,571	0	0	0	3,542,571
広告宣伝費	25,146,398	0	0	0	25,146,398
教養娯楽費	2,646,368	0	0	0	2,646,368
支払手数料	3,408,480	37,637	5,720	0	3,451,837
売店仕入費	15,614,219	0	0	0	15,614,219

**正味財産増減計算書内訳表**  
令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位:円)

科目	ホーム会計	診療所会計	社会厚生会計	法人会計	合計
医薬品仕入費	12,443,770	14,837,768	0	0	27,281,538
介護負担金	3,286,400	0	0	0	3,286,400
研究助成費	0	0	4,200,000	0	4,200,000
建物減価償却費	68,345,877	1,680,139	0	0	70,026,016
リース資産減価償却費	0	0	0	0	0
建物付属設備減価償却費	11,192,988	275,156	0	0	11,468,144
構築物減価償却費	4,072,240	100,107	0	0	4,172,347
車両運搬具減価償却費	809,542	19,900	0	0	829,442
什器備品減価償却費	20,369,297	500,736	0	0	20,870,033
電気通信施設減価償却費	36,022	885	0	0	36,907
ソフトウェア減価償却費	2,395,869	58,897	0	0	2,454,766
長期前払費用減価償却費	141,166	0	0	0	141,166
雑費	775,096	392,759	0	0	1,167,855
事業費 計	888,371,739	89,465,814	13,029,408	0	990,866,961
②管理費					
役員報酬	5,425,000	0	0	1,808,333	7,233,333
給与手当	4,618,570	0	0	3,571,695	8,190,265
賞与引当金繰入	473,250	0	0	365,980	839,230
退職金	278,000	0	0	0	278,000
役員退職慰労引当金繰入	450,000	0	0	150,000	600,000
法定福利費	1,547,383	0	0	905,961	2,453,344
退職年金保険料	0	0	0	0	0
通勤費	376,065	0	0	376,065	752,130
福利厚生費	1,503,800	0	0	71,001	1,574,801
会議費	120,842	0	0	95,325	216,167
旅費交通費	465,640	0	0	0	465,640
通信運搬費	767,371	0	0	215,495	982,866
什器備品費	0	0	0	0	0
消耗品費	0	0	0	69,898	69,898
印刷費	0	0	0	256,611	256,611
図書費	0	0	0	58,800	58,800
電気料	196,657	0	0	104,884	301,541
水道料	14,421	0	0	7,691	22,112
賃借料	2,995,770	0	0	1,597,744	4,593,514
リース料	0	0	0	18,480	18,480
業務委託費	3,617,440	0	0	26,950	3,644,390
清掃費	215,406	0	0	0	215,406
交際費	95,640	0	0	45,560	141,200
保険料	310,206	0	0	7,090	317,296
諸会費	0	0	0	0	0
租税公課	0	0	0	4,044,771	4,044,771
支払手数料	21,890	0	0	2,750	24,640
雑費	0	0	0	0	0
管理費 計	23,493,351	0	0	13,801,084	37,294,435
経常費用 計	911,865,090	89,465,814	13,029,408	13,801,084	1,028,161,396
当期経常増減額	△ 18,380,894	△ 14,243,577	△ 13,029,408	12,534,194	△ 33,119,685
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
投資有価証券売却益	0	0	0	0	0
経常外収益 計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用					
什器備品除却損	302,345	139,397	0	0	441,742
投資有価証券評価損	38,572,500	0	0	18,388,000	56,960,500
投資有価証券売却損	0	0	0	0	0
投資有価証券償還損	0	0	0	0	0
経常外費用 計	38,874,845	139,397	0	18,388,000	57,402,242
当期経常外増減額	△ 38,874,845	△ 139,397	0	△ 18,388,000	△ 57,402,242
他会計振替額	△ 11,914,314	2,823,298	12,745,955	△ 3,654,939	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 69,170,053	△ 11,559,676	△ 283,453	△ 9,508,745	△ 90,521,927
法人税、住民税及び事業税	140,000	0	0	0	140,000
法人税等調整額	157,900	0	0	0	157,900
当期一般正味財産増減額	△ 69,467,953	△ 11,559,676	△ 283,453	△ 9,508,745	△ 90,819,827
一般正味財産期首残高	35,945,311	104,030,554	△ 423,817	319,445,462	458,997,510
一般正味財産期末残高	△ 33,522,642	92,470,878	△ 707,270	309,936,717	368,177,683
II 指定正味財産増減の部					
① 特定資産運用損益					
特定資産投資有価証券評価損益	△ 22,497,000	0	0	△ 53,073,000	△ 75,570,000
② 受取寄付金					
受取寄付金	37,092,226	0	0	0	37,092,226
③ 受取利息					
受取利息	6,812,065	0	0	0	6,812,065
④ 一般正味財産への振替額					
一般正味財産への振替額	19,221,742	0	0	0	19,221,742
当期指定正味財産増減額	2,185,549	0	0	△ 53,073,000	△ 50,887,451
指定正味財産期首残高	597,212,760	0	0	1,118,080,100	1,715,292,860
指定正味財産期末残高	599,398,309	0	0	1,065,007,100	1,664,405,409
III 正味財産期末残高	565,875,667	92,470,878	△ 707,270	1,374,943,817	2,032,583,092

## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

#### (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法に基づく原価法

#### (2) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券

原価法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(売却価額は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法に基づく原価法

#### (3) 固定資産の減価償却の方法

##### ①有形固定資産

建物、平成28年4月1日以降に取得した建物付属設備及び構築物の減価償却は、法人税法に規定する法定耐用年数による定額法を採用している。

平成28年3月31日以前に取得した建物付属設備及び構築物、車両運搬具及び什器備品の減価償却は、法人税法に規定する法定耐用年数による定率法を採用している。

##### ②無形固定資産

ソフトウェアの減価償却は、定額法による方法を採用している。

##### ③長期前払費用

長期前払費用の減価償却は、均等法による方法を採用している。

##### ④リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産について、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。

#### (4) 引当金の計上基準

##### ①賞与引当金

職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。

##### ②退職給付引当金

職員の退職に備え、勤労者退職金共済機構の中小企業退職金共済制度を導入したため、退職給付引当金はない。

##### ③役員退職慰労引当金

役員(非常勤を含む)の退職慰労・功労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上している。

#### (5) 消費税等の会計処理

消費税等の経理処理は、税込方式によっている。

#### (6) 税効果会計の適用について

税引前の当期一般正味財産増減額と法人税等の金額を合理的に期間対応させ、より適切な当期正味財産増減額を計上することを目的として税効果会計を適用している。

## 2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	備考
特定資産					
特定資産有価証券	1,000,000,000	0	0	1,000,000,000	
建物	13,283,496	0	866,592	12,416,904	
建物付属設備	1	0	0	1	
構築物	14,488,294	0	579,531	13,908,763	
車両運搬具	2,483,369	0	829,442	1,653,927	
什器備品	668,411	0	603,884	64,527	
土地	15,400,000	0	0	15,400,000	
固定資産購入積立資産	555,817,414	391,370,791	389,185,242	558,002,963	
霊園購入積立資産	76,343,727	0	0	76,343,727	
合計	1,678,484,712	391,370,791	392,064,691	1,677,790,812	

## 3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	当期末残高	(うち指定正味 財産からの充当)	(うち一般正味 財産からの充当)	(うち負債に対応 する額)	備考
特定資産					
特定資産有価証券	1,000,000,000	(1,000,000,000)	(0)	(0)	
建物	12,416,904	(12,416,904)	(0)	(0)	
建物付属設備	1	(1)	(0)	(0)	
構築物	13,908,763	(0)	(13,908,763)	(0)	
車両運搬具	1,653,927	(1,630,909)	(23,018)	(0)	
什器備品	64,527	(64,527)	(0)	(0)	
土地	15,400,000	(0)	(15,400,000)	(0)	
固定資産購入積立資産	558,002,963	(558,002,963)	(0)	(0)	
霊園購入積立資産	76,343,727	(0)	(76,343,727)	(0)	
合計	1,677,790,812	(1,572,115,304)	(105,675,508)	(0)	

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。(単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高	備考
特定資産				
建物	25,488,000	13,071,096	12,416,904	
建物付属設備	24,990,000	24,989,999	1	
構築物	20,920,691	7,011,928	13,908,763	
車両運搬具	33,733,022	32,079,095	1,653,927	
什器備品	15,977,942	15,913,415	64,527	
小計	121,109,655	93,065,533	28,044,122	
その他固定資産				
建物	2,361,265,965	1,501,853,652	859,412,313	
建物付属設備	652,548,421	577,239,164	75,309,257	
構築物	278,527,908	241,273,268	37,254,640	
車両運搬具	7,902,782	7,902,781	1	
什器備品	423,017,455	361,899,387	61,118,068	
リース資産	88,966,896	88,966,896	0	
ソフトウェア	57,954,214	50,697,222	7,256,992	
長期前払費用	1,210,000	141,166	1,068,834	
電気通信施設利用権	738,150	424,430	313,720	
小計	3,872,131,791	2,830,397,966	1,041,733,825	
合計	3,993,241,446	2,923,463,499	1,069,777,947	

5. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内容	金額	備考
(老人ホーム事業会計)		
経常収益への振替額		
減価償却費計上による振替額	19,221,742	
合計	19,221,742	

## 6. 税効果会計関係

### (1) 繰延税金資産の主な原因別の内訳

(単位:円)

項目	金額	備考
賞与引当金繰入否認	7,893,500	
繰延税金資産(流動資産)	7,893,500	
投資有価証券評価益否認	20,403,700	
繰越欠損金	59,520,300	
入居者長期預り金	183,501,700	
役員退職慰労引当金	192,200	
未払労働保険料	806,900	
評価性引当額	△ 264,424,800	
繰延税金資産(固定資産)	0	
繰延税金資産合計	7,893,500	

### (2) 法人税法上の非収益事業と収益事業の区分

(単位:円)

項目	非収益事業	収益事業	合計	備考
税引前当期一般正味財産増減額(A)	△ 9,792,198	△ 80,729,729	△ 90,521,927	
法人税、住民税及び事業税(B)	0	140,000	140,000	
過年度法人税等(C)	0	0	0	
法人税等調整額(D)	0	157,900	157,900	
当期一般正味財産増減額(A)-(B)-(C)-(D)	△ 9,792,198	△ 81,027,629	△ 90,819,827	

### (3) 法人税法上の収益事業に係る法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

当事業年度は税引前当期一般正味財産増減額がマイナスのため記載を省略する。

## 7. リース取引関係

### (1) ファイナンス・リース取引

#### ① 所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

その他固定資産

有料老人ホーム「ラビドール御宿」における、医療用コンピュータシステム、緊急通報システムである。

## 附属明細書

### 1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表の注記に記載しているため、内容の記載を省略している。

### 2. 引当金の明細

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	38,240,080	37,428,100	38,240,080	0	37,428,100
役員退職慰労引当金	900,000	1,800,000	0	900,000	1,800,000

一般財団法人  
千代田健開発事業団